

---



---

 学 会 記 事
 

---



---

## 第5回新潟消化器病遺伝子・免疫研究会

日 時 平成10年11月13日(金)

PM 6:00~8:30

会 場 新潟グラントホテル

3F 悠久の間

## 一 般 演 題

- 1) マウスレトロウイルスにより惹起されるシェーグレン症候群様外分泌腺症におけるサイトカイン発現の検討

摺木 陽久・鈴木 健司  
 佐々木俊哉・馬場 靖幸(新潟大学)  
 長谷川勝彦・朝倉 均(第三内科)  
 河内 裕・清水不二雄(同附属腎研究施設  
 分子病態学分野)

【目的】我々は、LP-BM5 murine leukemia virus (MuLV) に感染した C57BL/6 (B6) マウス (Murine Acquired Immunodeficiency Syndrome: MAIDS) に Sjögren's syndrome (SjS) 様の外分泌腺症が生じることを報告してきた。この MAIDS マウスの諸臓器における病変の形成にどのようなサイトカインが関与しているかを明らかにするために、その mRNA の発現を検討した。

【対象及び方法】LP-BM5 感染後の MAIDS マウスの唾液腺、脾臓、リンパ節などにおけるサイトカイン (IFN- $\gamma$ , IL-2, IL-10, TNF- $\alpha$ ) の mRNA の発現を経時的に RT-PCR 法を用いて、未処置の B6 マウスと比較検討した。

【結果】LP-BM5 感染マウスの唾液腺や脾臓には細胞浸潤巣を認め、SjS 様の外分泌腺症が生じた。サイトカインに関しては、IFN- $\gamma$ , IL-2, IL-10, TNF- $\alpha$  の発現が、MAIDS マウスの唾液腺、脾臓で見られたが、未処置の B6 マウスでは見られなかった。

【結論】MAIDS マウスの SjS 様の外分泌腺症の形成には、IFN- $\gamma$ , IL-2 を産生する Th1 や、IL-10 を産生する Th2 などの CD4<sup>+</sup>T 細胞と、TNF- $\alpha$  を産生するマクロファージが関与している可能性が示唆された。

- 2) レトロウイルス感染マウス脾細胞のヌードマウスへの移入による実験性腸炎の解析  
 一大腸組織における浸潤細胞の種類と分布について

摺木 陽久・鈴木 健司  
 馬場 靖幸・長谷川勝彦  
 佐々木俊哉・佐藤 祐一  
 望月 剛・杉村 一仁  
 本間 照・成澤林太郎(新潟大学医学部)  
 朝倉 均(第三内科)  
 金沢 寛明(同 第三解剖)  
 河内 裕・清水不二雄(同附属腎研究施設  
 分子病態学分野)

【要旨】我々は、murine AIDS (MAIDS) マウスの脾臓細胞を B6 ヌードマウスに移入すると、そのマウスにシェーグレン症候群様の外分泌腺炎のみならず潰瘍性大腸炎類似の大腸炎 (MAIDS 腸炎) が生じることを見出し報告した。

今回は、MAIDS 腸炎の大腸の炎症局所における浸潤細胞の種類と局在、サイトカイン (IFN- $\gamma$ , IL-10) との関係について、免疫蛍光抗体法を用いて検討した。CD4<sup>+</sup>T 細胞は主に粘膜固有層にび漫性に浸潤し、CD8<sup>+</sup>T 細胞は腸上皮間に散在性に存在した。B220<sup>+</sup> 細胞は粘膜固有層の所々に集簇巣を形成し、Mac-1<sup>+</sup> 細胞は腸上皮下やびらん面直下、あるいは粘膜固有層にび漫性に浸潤していた。また、二重染色により、IFN- $\gamma$  は Mac-1<sup>+</sup> 細胞が、IL-10 は CD4<sup>+</sup>T 細胞が主に産生していると考えられた。更に RT-PCR 法により、MAIDS 腸炎の大腸においては IFN- $\gamma$  と IL-10 の mRNA の発現も認められた。

以上より本実験性腸炎の発症には、IL-10 を産生する CD4<sup>+</sup>T 細胞と IFN- $\gamma$  を産生する Mac-1<sup>+</sup> 細胞が関与していることが示唆された。

- 3) 肝再生早期における NKT 細胞の増加とその役割

皆川 昌広・大矢 洋  
 清水 孝王・坂内 誠(新潟大学医学部)  
 安保 徹(医動物免疫)  
 皆川 昌広・大矢 洋  
 清水 孝王・坂内 誠  
 畠山 勝義(同 第一外科)

【目的】肝再生早期の残存肝中では、NKT 細胞の著増が認められる。今回我々は、これら NKT 細胞増加の要因の一つとして catecholamine の関与を調べるとともに、肝細胞障害活性を調べることにより、肝再生